

教科 音楽 (小・中)

	指導の重点	努力事項
指導計画の作成	○ 音楽活動の基礎的な能力の育成を図るために指導計画を改善する。	○ 小・中学校9年間の目標及び内容の系統性を踏まえ、学びの連続性を考慮し、各領域及び各分野がバランスよく配置された年間指導計画を作成する。 ◎ 【共通事項】を踏まえて題材で育成する力を明確にし、表現（歌唱・器楽・音楽づくり及び創作）と鑑賞との関連を図る。
指導の工夫	○ 子どもが音楽活動の楽しさや喜びを味わい、主体的・創造的に学習に取り組むような指導方法を工夫する。	○ 音楽を形づくっている要素や要素同士の関連を知覚し、それらの働きが生み出す特質を感受できるような学習活動を組織する。 ○ 音遊びや即興的な表現を取り入れ、音楽づくりの過程を楽しみながら、実際にいろいろな音楽表現を試し、互いの表現のよさを交流するなどして、音楽をつくる喜びを味わわせる。 ○ 子どもの実態に応じて、多様な表現形態を取り入れ、協働的な学習を促し、音と言葉によるコミュニケーションを図る指導を充実させる。 ○ 我が国や郷土の伝統音楽のよさを味わい、音楽の多様性を理解することができるような指導を工夫する。
評価の充実	○ 子どもと音楽のかかわりを深め、一人一人の学びを支える適切な評価を工夫する。	○ 評価の観点をもとに、具体的な評価項目及び方法を明確にし、題材の評価規準及び指導と評価の計画を位置付け、それをもとに一人一人の学習状況を多面的に把握する。 ◎ 子どもが思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、子ども一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かす。

※は参考文献等

問題解決的な学習を中軸とした授業充実のために

授業づくりのポイント1（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P3）
単元のねらいと子どもの実態等を踏まえ、系統性を図った単元構想の工夫

◎ **【共通事項】を踏まえて題材で育成する力を明確にし、表現（歌唱・器楽・音楽づくり及び創作）と鑑賞との関連を図る。**

- ・ 指導要領や教科書等によって子どもが前学年までに身に付けた知識や技能を把握する。
- ・ アンケートや観察によって、子どもの興味・関心や音楽的諸能力を把握して、教材の選択に生かす。
- ・ 歌唱や器楽の活動を通して学んだ音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を音楽づくりの活動に生かす。
- ・ 音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を歌唱や器楽の表現に生かす。
- ・ 表現の各活動で学んだ音楽を特徴付けている要素及び音楽の仕組み、音符、休符、記号や音楽にかかわる用語を鑑賞の活動に生かす。
- ・ 育みたい資質や能力を踏まえながら、関連のある指導内容や教材のまとまりを考慮して、題材構成やその配列に反映させる。

授業づくりのポイント6（「【参考資料】確かな学力の向上のために」P15）
学習内容の定着を図る「振り返る活動」の充実

◎ **子どもが思いや意図をもって音楽表現を追究したり、音楽の美しさを味わったりする学習過程を組織し、子ども一人一人のよい点や成長の状況などを積極的に評価し、指導に生かす。**

- ① 一人一人の子どもの思いや意図を大切に、いろいろと試すための時間を確保する。
- ② いろいろと試しながら自分が気付いたり感じたりしたこと、友達の表現のよさなどを言葉で表現する場面を設け、自己の変容や成長を実感させる。

※ 評価規準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料 小学校・中学校（平成23年11月 国立教育政策研究所）